

編 集 後 記

平成 22 年度の『学苑 人間社会学部紀要』をお届けします。人間社会学部の 4 学科が合同で作成することから、紀要を毎年積み重ねることによって本学部が求める人間社会学の全体像が明らかになってくると思われます。本紀要はそのための一里塚でもあると捉えることができます。そのことを願って、編集後記では各学科の委員から所属学科のこの一年の動向について報告することになります。

心理学科では定期的にカリキュラム内容の見直しをしています。現在「臨床心理」、「社会心理」、「認知心理」、「発達心理」の視点から幅広く専門的知見を学べるようにするほか、コミュニティにおける支援活動を通じた実践的学習を積極的に取り入れています。また、例年どおり上級生が主体的にプログラムした新入生歓迎会、学寮研修なども活発に進められ、キャリア支援の専門講師を招き特別授業も行われました。コスモス祭では、学生を中心にして企画された体験的展示が設けられ好評を得ました。(渡邊)

開設から 8 年目を迎えた**現代教養学科**では、木下武男先生が定年退職され、新しく清水真先生をお迎えしてスタートしました。本年度の学科活動の特色としては、国内・国外社会調査研修を開始したことと、“CLA Students’ Activities”と名づけた学生による様々な活動を開始したことです。大学 1 号館 1 階にオープンした学生が運営する書店「CLA BOOKSTORE PROJECT “Snow White”」、文化研究講座を有意義に受講するために学生の視点から催し物のたびに解説を加えた“Viva Arte”など、学生が積極的に取り組んでいます。社会を視野に入れた本学科ならではの特質を生かした活動として、今後も継続していく予定です。(福田)

福祉社会学科の 4 年生は、卒業論文が必修となる最初の学年であり、3 年生から専門ゼミによる研究を積み上げてきた学年でした。厳しい就職活動と並行しながらも、全員が卒業論文を仕上げることができました。2 年生は、2009 年に新たに設置した「ソーシャルワーク」、「子ども・家庭支援」、「福祉キャリア」の 3 つのコースから自分の関心あるコースを選択し、専門的知識や技術を習得できた 1 年となりました。また、デンマークの「首都圏社会教育者保育士養成大学」(University College Capital)との交換留学制度に着手し、2011 年度から実施する予定です。グローバルな視野をもつ専門職の養成に 1 歩近づけたのではないかと感じています。(根本)

初等教育学科では、昨年 2 月に念願の学科独自の春季ボストン研修を行うことができました。現地の幼稚園や小学校等を訪問しアメリカの教育を肌で感じるとともに、子どもたちと触れ合う体験を通して国際化時代に対処できる教師力をはぐくんでくれました。今年は 3 月に実施され、現在参加学生が特訓を受けている所です。また、大学院人間教育学専攻が 3 年目を迎え、博士課程とつながるようになりました。組織的には学部から博士課程まで完備されたこととなります。全国に発信できる教員養成、教育研究機関の確立へと歩んでいきたいと願っています。(押谷)

お世話になりましたすべての皆様に感謝申し上げますとともに、本紀要のいっそうの充実のために皆様方から貴重なご意見をいただけますことを念じております。

編集委員 渡邊佳明・福田淳子・根本治代・押谷由夫

☆掲載論文の無断転載を禁じます。

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂一ノ七 電話 03 (三四一一) 五三〇〇	発行所 昭和女子大学 近代文化研究所	印刷所 三 秀 舎	編集発行人 猪 熊 雄 治	平成二十三年 一月二十日 印刷 平成二十三年 二月一日 発行	学苑 八百四十四号 定 価 八四〇円 (本体八〇〇円) 購読料 一カ年分 一〇〇八〇円 (本体 九六〇〇円)